ニスモ　スープラの牙城崩した

初優勝　エース23号車

自新車レース　スーパーGT

ニスモが〝スープラの牙城〟をついに崩した。52周で決勝レースが行われた。GT500は予選2位のニスモのモチュール・オーテックZ（千代勝正、高星明誠組）が19周目のピット作業でトップに浮上。開幕戦から決勝5レース（第4戦の富士は2レース制）で圧倒的な強さを誇っていたスープラの連勝を止めて今季初優勝を飾った。GT300は今季から参戦しているカーガイ・フェラーリ296GT3（Z・オサリバン、小林利徠斗組）がうれしい初優勝を成し遂げた。

第5戦（24日、三重・鈴鹿サーキット＝1周5・897キロ）

◆ニスモ（ニッサン・モータースポーツ・インターナショナル）日産自動車のワークスチームとして1984年に設立。海外、国内のモータースポーツをリードしてきた名門チーム。前身の全日本GT選手権から参戦していて、鈴木亜久里、片山右京、本山哲、松田次生らの名ドライバーが所属していた。

「ニスモ」は日産自動車が運営するチームで、「スープラ」はトヨタ自動車のマシンのことだHo！

GT500決勝で日産応援団の大歓声を受けながらホームストレートを駆け抜ける23号車のニスモ（カメラ・橋口　真）【切り込み写真】シャンパンで乾杯するニスモの高星明誠㊧と千代勝正

「みんなで取れた」

気温35度、路面温度52度の灼熱のレースに、ニスモのエースマシンが帰ってきた。王者の威厳を引き継ぐ「23号車」の凱旋に2万9000人の観衆から大きな拍手が起きた。

勝負のポイントはピット作業だった。千代は「高星選手が僅差でピットに飛び込んできたのが大きい。16号車（ポールからスタートしたARTA）も同じタイミングで入った。今回、ウチは大事な左フロントのタイヤマンが病欠だった。それをベテランのメカニックがカバーしてくれた。これがニスモのお家芸です」。一丸となったピット作業でARTAより先にコースに戻ってからは千代がタイヤをいたわりながらのドライブ。開幕戦から連勝街道を走ってきたスープラ勢を止め、「みんなで取れた白星」と胸を張った。

23号車はニスモのエースナンバーで、どの時代もエースドライバーがシートを守っていた。前身の全日本GT選手権を含めるとチームタイトルとドライバーズタイトルをそれぞれ8度も獲得。その中心が23号車だった。千代と高星のコンビで23号車をドライブするのは今季から。「23号車は常に主役の一台にならないといけない」と千代も数字が持つ重みを理解していた。

ニスモの復活劇の背景には軽いサクセスウェート（ハンデ、18キロ）があったのも事実。「今回はパフォーマンスが良かったというより（ウェートが）軽かったのが大きい。第6戦の菅生（宮城・9月20、21日）では優勝、あるいは表彰台に上がって初めてパフォーマンスが良いと言えると思う」と高星。初優勝から23号車の逆襲が始まる。（今関　達巳）

今季のスーパーGT

レース	クラス	優勝	会場
第1戦	GT500 GT300	auトムス レオン	岡山国際サーキット（岡山）
第2戦	GT500 GT300	セルモ ウェロレックス	富士スピードウェイ（静岡）
第3戦	GT500 GT300	テルイ・トムス アップガレージ	マレーシア・セパン
第4戦	GT500 GT300 GT500 GT300	auトムス Dステーション ルーキー Dステーション	富士スピードウェイ（静岡）
第5戦	GT500 GT300	ニスモ カーガイ	鈴鹿サーキット（三重）
第6戦	予選 決勝	9月20日 21日	スポーツランドSUGO（宮城）
第7戦	予選 決勝	10月18日 19日	オートポリス（大分）
最終戦	予選 決勝	11月1日 2日	モビリティリゾートもてぎ（栃木）

◆スーパーGT第5戦　決勝結果◆

順位	車番	ドライバー	チーム／マシン／タイヤ	SW	タイム（差）	P
			GT500クラス（52周）			
1	23	千代勝正、高星明誠	ニスモ／Zニスモ／BS	18	1時間47分10秒646	29
2	14	大嶋和也、福住仁嶺	ルーキー／GRスープラ／BS	67	5秒768	48.5
3	3	佐々木大樹、三宅淳詞	NDDP／Zニスモ／BS	12	16秒569	17
4	16	大津弘樹、佐藤　蓮	ARTA／シビックタイプR／BS	0	17秒844	9
5	38	石浦宏明、大湯都史樹	セルモ／GRスープラ／BS	74	21秒454	43
6	39	関口雄飛、S・フェネストラズ	サード／GRスープラ／BS	48	22秒540	29
7	64	伊沢拓也、大草りき	ナカジマ／シビックタイプR／DL	9	25秒565	8.5
8	12	平峰一貴、B・バゲット	インパル／Zニスモ／BS	49	25秒197	24.5
9	1	坪井　翔、山下健太	auトムス／GRスープラ／BS	100	25秒625	58.5
10	100	山本尚貴、牧野任祐	クニミツ／シビックタイプR／BS	52	33秒729	27
			GT300クラス（49周）			
1	7	Z・オサリバン、小林利徠斗	カーガイ／フェラーリ296／YH	39	1時間48分25秒177	44.5
2	61	井口卓人、山内英輝	R&D／スバルBRZ／DL	46	17秒452	44
3	5	塩津佑介、木村偉織	マッハ／MC86／YH	34	23秒254	33
4	45	R・コッツリーノ、篠原拓朗	ポノス／フェラーリ296／DL	42	26秒623	34
5	4	谷口信輝、片岡龍也	グッドスマイル／メルセデスAMG／YH	100	31秒916	47.5
6	52	吉田広樹、野中誠太	クリーンプレイブ／GRスープラ／BS	61	39秒112	40.5
7	0	小暮卓史、元嶋佑弥	ILOC／ランボルギーニ・ウラカン／YH	45	41秒268	31.5
8	56	J・P・オリベイラ、★平手晃平	コンドー／GT－R／YH	73	41秒375	26.5
9	666	近藤　翼、★日・キング	セブン・バイ・セブン／ポルシェ911／YH	31	1分16秒109	22.5
10	11	富田竜一郎、大木一輝	ゲイナー／フェアレディZ／DL	18	1周遅れ	15
11	18	小林崇志、野村勇斗	アップガレージ／メルセデスAMG／YH	67	1周遅れ	38.5
12	2	堤　優威、平良　響	インギング／GR86／BS	97	1周遅れ	52.5
13	65	蒲生尚弥、菅波冬悟	レオン／メルセデスAMG／BS	100	1周遅れ	64
14	96	新田守男、高木真一	Kチューンズ／レクサスRC　F／DL	27	1周遅れ	15.5
15	62	平木湧也、平木玲次	ヘルム／GT－R／YH	14	1周遅れ	8

【注】マシンはMC＝マザーシャシー。タイヤはBS＝ブリヂストン、DL＝ダンロップ、YH＝ヨコハマ。SW＝サクセスウェート（キロ）。P＝ポイント、★平手晃平は44.5P、H・キングは14.5P

監督は元レースクイーン　GT300今季参戦　カーガイ初優勝

GT300は、20歳コンビが華麗な走りを見せたカーガイが制した。今季から参戦の新チームを優勝に導いた小林は「チームとして、総合力での優勝」と喜んだ。元レースクイーンの芳賀美里監督（46）も「ドライバーを信じていました」と目を潤ませた。

レース中盤からハンドルを握った小林は、無線が聞こえないトラブルに見舞われていた。自分が何位なのかも分からない状況に陥っていたという。「正直、トップ争いをしているとは…。だからこそ、気楽に挑みにいくことができたのかも」。巧みなハンドリングで一位に躍り出た場面も、無心でアクセルを踏んだ。20歳の新鋭は「勝てたことはうれしいが、改善点もあった」とさらなる成長を誓った。

GT300クラスで初優勝したカーガイの（左から）オサリバン、小林、芳賀監督

猛暑対策議論

○…スーパーGTを運営するGTアソシエイション（GTA）の坂東正明代表＝写真＝は猛暑の〝8月対策〟を真剣に考えなければいけないと明かした。来季のカレンダーはすでにJAF（日本自動車連盟）に提出済みで8月に富士と鈴鹿の2レースが組み込まれている。「この鈴鹿を乗り切ったらみんなで議論する。例えば日曜日の夕刻に決勝レースを行い、マシンの搬出などを月曜日にするなど柔軟な方法を考えていく」と話した。

◇スーパーGTアラカルト

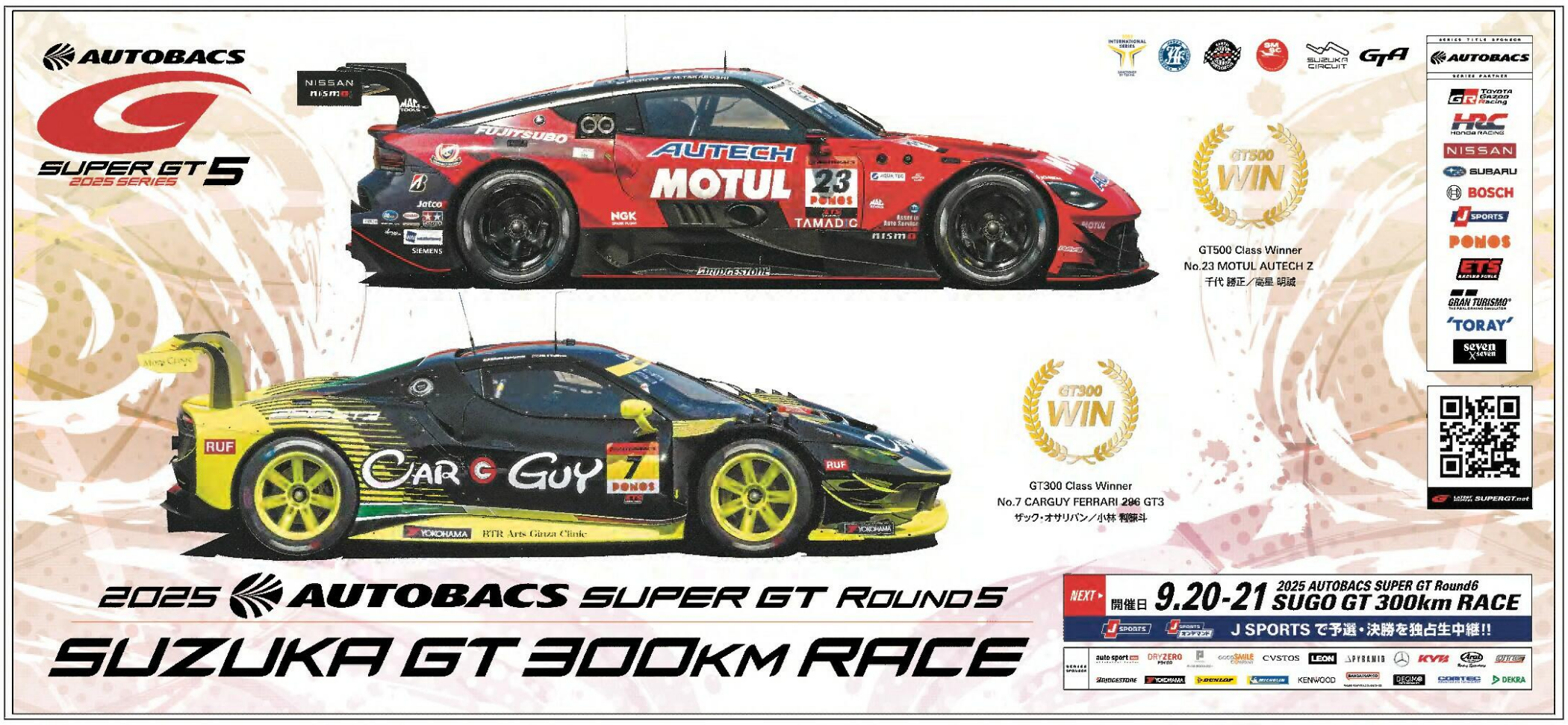
▽シリーズポイント　年間を通じたシリーズ戦での順位などでポイントを獲得。ドライバー部門とチーム部門のタイトル（チャンピオン）を争う。

▽スーパGTのクラス分け　主に500馬力のGT500、300馬力のGT300。500はメーカー系チーム、300はプライベートチーム。見分け方はゼッケンで、白の500に対し、300が黄色。

▽スーパーGT　長距離を高速で移動できる高性能GTカーがベースのレーシングカーで競う自動車レースのシリーズ戦。GTはツーシーター、またはクーペ車の定義「グランドツーリングカー」の略。

▽いつから？　前身は全日本GT選手権で94年から。05年に名称を現行に改める。

▽観客数　シリーズ全8戦の19年実績で平均4万8000人超、年間では約39万人を動員。

▽参戦数　25年はGT500が15台、GT300が28台。

レイアウト　中島　仁志